

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	発達と学習の心理学 [Psychology of Learning and Development]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブラーニング	高橋 勇一			NS-T2203		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校2種・保健体育、栄養教諭2種） ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
幼児、児童及び生徒の心身の発達はどのようになされるか、発達に影響を及ぼす要因、各発達段階の特徴、発達課題等について理解する。また、学習に影響を及ぼす要因、学習の動機づけ、集団づくり、学習評価、学級経営のあり方等について、教育実践に役立つ力を身に付ける。						
学習の到達目標						
1.発達の過程及び特徴について理解する。2.学習のメカニズムを理解する。3.発達と学習の諸理論について理解する。以上の3点を基に、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を考察する。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	発達について	教育心理学、発達観、発達・発育曲線				
2	心と記憶	心と脳、記憶の仕組み、忘却曲線、メタ記憶				
3	発達に関する諸理論	ハヴィガーストの発達課題、ピアジェ理論、エリクソン理論				
4	幼児期の発達	基本的信頼、マッシュロテスト、愛着（アタッチメント）				
5	学童期の発達	小1プロブレム、勤勉性、社会性の発達、9（10）歳の壁				
6	青年期の発達① 青年期の特徴と課題	中1ギャップ、自我の芽生え、反抗期、アイデンティティの確立				
7	青年期の発達② 青年期の学説	モロトリアム、マージナルマン、孤独感、10代の脳と心				
8	生涯発達・ライフサイクル	ライフサイクル、中年の危機、アイデンティティの再確立				
9	知性・パーソナリティ	知性の発達、タイプ論と特性論、パーソナリティ心理学				
10	学習意欲・動機づけ	動機づけ、学習性無力感、期待効果（ピグマリオン効果）				○
11	学習理論と学習方法	S-R理論、分散と集中、自己調整学習、学習形態				○
12	学習評価	IQ、絶対評価と相対評価、ポートフォリオ、コンピテンシー				○
13	発達障害と学習	発達障害、学習障害、学習支援				○
14	学級集団と人間関係	学級集団、人間関係の測定法、学級経営、PM論				○
15	総合・まとめ	発達過程、学習と記憶				
教科書及び参考図書						
参考図書・参考資料等 和田万紀 編『Next 教科書シリーズ 教育心理学』弘文堂、外山紀子・外山美樹 著『やさしい発達と学習』有斐閣 アルマ、安藤寿康・鹿毛雅治 編『教育心理学』慶応義塾大学出版会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.0時間）：参考図書やインターネット・配付資料等を通して、予習しておくこと。 事後学習（週2.0時間）：授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用するために、さらなる探究や調べ学習を行うこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出された課題などにコメントを返信する。共通の内容については授業内でフィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
授業参加態度・小レポートの内容 50%、授業内課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	発達と学習の心理学についての知識を十分に理解し、教育実践に応用できる力を身に付けている。					
A	発達と学習の心理学についての知識を理解し、実践的方法を概ね身に付けている。					
B	発達と学習の心理学の概略について理解し、実践的方法の一部を身に付けている。					
C	発達と学習の心理学の概略について最低限は理解している。					